

高校時代からの友人たちと谷川山系を歩く ②



ムラサキヤシオ(紫八染)ツツジ科
の苦勞が偲ばれる。

2日目の宿は新潟県三国峠温泉の「御宿本陣」。宿の説明では江戸時代の初期、三国街道が整備された折に設置された本陣で、400年の歴史があるとのこと。標高は960m、近くに苗場スキー場などがある。「三国」は信濃、越後、上野で、戦国時代には上杉謙信が関東に攻め込むルートとして整備したらしいが、海拔1000m超の峠を何千もの軍勢が徒歩で越えたかと思うと、兵として狩り出され、また兵糧補給を担わされた農民たちの

平標(たいらっぴょう)山へ

8日、朝食後平標山をめざす。本陣宿から湯沢方面に10分ほど車を走らせると道の右側(東側)に「平標山登山口駐車場」がある。そこに車を置いて溪流沿いの道を歩く。ラショウモンカズラが点々と咲いている。ニシキゴロモも。やがて林道に出る。一般車通行禁止の岩魚沢林道は木漏れ日を浴びての格好の遊歩道。路傍はクルマバムグ



ラやテンナンショウ、
平標山の家の展望台で。背後は仙ノ倉山
そしてイチゴ、スマレなどが数種ずつ花をみせるが、残念な事に
浅学の身では種の同定が出来ない。

1時間強歩いて『平元新道』の入り口に到着、一服後広葉樹林
の中の急坂をゆっくりと登る。樹林の中のムラサキヤシオは良く
目立つが、チゴユリ、マイヅルソウ、ツクバネソウ、ユキザサな
ど道端の花はいずれも地味、しかしどれも可愛く、立ち止まって
息を継ぎながらつい見入ってしまう。

写真下コシジオウレン



ラショウモンカズラ 階段の多いしんどい登山路を時間を
かけて登りきり、尾根上の「平標山の家」に到着。

景観は一変する。利根川の支流・赤谷川が刻んだ深い谷を
挟んで、仙ノ倉山を中心に谷川山系の主稜がたおやかな稜線
を見せて眼前に横たわっているのだ。あちこちにたつぷりと
雪を残しつつも、冬の装いを解いた山肌は様々な色合いの緑





を帯び始めている。その新緑が、いや枯れ葉色の笹原も、雪さえもが、初夏の陽光を浴びて、春の息吹を放っている。

「登ってきて良かったねえ」と語尾を上げながら、女性たちが互いを讃えあっており、展望広場を縁取るノウゴウイチゴの花の群れも揃って見上げてくれているかのよ

ミネザクラ う。カッコウの声が遠くから響いてきた。

広場の片隅にリュックを置いて、水とカメラとを持って平標山山頂に向かう。途中雪を踏んで登る。ショウジョウバカマやタテヤマリンドウ、ヒメイチゲなどが花を開こうとしており、ハイマツの中でミネザクラが花をたわわに着けていた。

仙ノ倉山とのお花畑まで足を伸ばしたが、ハクサンイチゲやハクサンコザクラもためらうように開花したばかりで、わずかにミネズオウやコメバツガザクラが花を見せてくれた。



上ノウゴウイチゴ(バラ科)



上 イワナシ



上 ツルキジムシロ



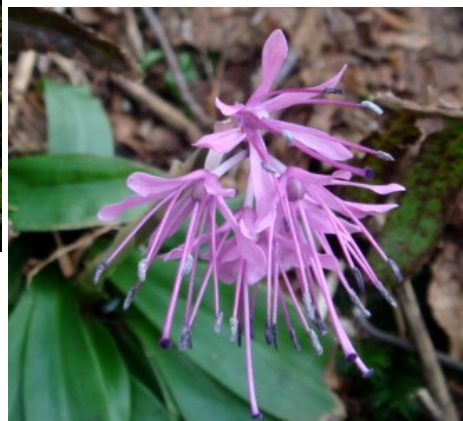
ミヤマスマイレ と シロバナミヤマスマイレ



上 オオカメノキ



上ハクサンイチゲ
右ショウジョウバカマ



下 ハクサンコザクラ

